

岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議第3回会議

議事概要

日 時 令和3年7月30日（金）

10:00～12:00

方 法 Zoomによるオンライン会議

1 開 会

2 議 事

(1) 子どもたちの夢を育む生涯学習の推進方策について

ア 中間まとめ（案）について

イ 検証モデル校の取組と検証に向けた今後の関わりについて

ウ 「夢育パートナーズ」の今後の取組について

(2) 岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画（読書バリアフリー計画）（仮称）の策定について

3 その他

4 閉 会

<議事概要>

○「2 議事（1）中間まとめ（案）について」

「資料1, 2, 3」により事務局が説明

会長 本日、欠席している委員から事前に伺っている意見を紹介してほしい。

事務局 「現状と課題」について、3点御意見を伺っている。1点目、コミュニティ・スクールが増加傾向にあることを記載してはどうか。2点目、学校の休日部活動の地域移行が始まろうとしていることを記載してはどうか。部活動の地域移行は、学校と地域の連携・協働に繋がる。3点目、異年齢と一緒に話し合い自己肯定感向上に繋げている団体がある。

「総括」についても、3点御意見を伺っている。1点目、コミュニティ・スクール設置校でなくても、コーディネーターはどんどん設置してほしい。地域と連携・協働する上で教員が負担に感じることはマッチングだけではなく、その後の具体的な打ち合わせである。そこもコーディネーターに担ってほしい。各校にフルタイムで設置することまでは望まないが、何らかの対策があってもよいのではないか。2点目、「学校を中心として」という言葉を見たとき、教員の負担増が

懸念される。学校を会場として貸し出すだけだとしても、鍵開けに職員が出勤しなければならない。そもそも休日や放課後は、部活動で体育館等は使っていて、一般開放する余地はないのではないか。3点目、教員の負担となる取組はうまくいかない。学校としてやりやすく、教員の力量に左右されない、継続的な連携・協働のあり方について検討していかなければならない。

会長 専門部会に属していない委員から御意見を伺いたい。

委員 「現状と課題」で、就学前を対象とした取組が小・中学生を対象とした取組に比べると低いというデータがある。「総括」の中に、県が行っている就学前の子どもを対象とした家庭教育支援事業の充実という文言を入れてはどうか。就学前の子どもに対する体験活動の働きかけは難しい。就学前の子どもの保護者を対象にした家庭教育支援事業も含めるよう、解釈を広げてはどうか。

事務局 就学前の子どもに対する取組が少ないことは、調査から明らかである。就学前の子どもの保護者に対して、新たな事業を検討していく必要があると考えている。いただいた御意見は、中間まとめに入れられるかどうか検討する。

委員 教員の負担感は、大きいのだなと改めて思った。中間まとめが効果的に幅広く共有されるためには、「総括」の中に「教員が授業に集中できる環境を作るために、地域も協力する。」というような、教員が前向きに捉えられるような言葉入れたらどうか。

発達障害等によって、子どものコミュニケーションの取りにくさに悩んでいる保護者も一定数いる。夢育パートナーズの活動や学活（まなかつ）、体験格差の是正が、発達障害等を抱える子どもの保護者の悩み解決にもつながるといった内容も入れてはどうか。

事務局 現在、県教育委員会で全体的に教員の働き方改革を行っている。そういった観点も課題に入れ、施策に反映できるように考えていきたい。

発達障害等を抱える子どもの保護者の方に対しては、障害を持つ方の生涯学習という関係から、非常に大切な視点である。中間まとめに入れられるかどうか検討し、今後の施策を考えていきたい。

委員 豊かな体験活動について、特にどのような活動を指すのか絞った方が、効果が上がるのではないか。「子どもの心が動く」「実際のものに触れる」「主体的な活動」「自分たちで計画する」といったことがポイントになると考える。
学校に丸投げとは言わないが、学校に任せているような中間まとめになり

つつある。夢育を推進するためには、行政、社会教育関係団体、コミュニティ・スクール、地域学校協働本部、地域など学校を取り巻く様々な方に、期待する関わり方を示す必要があるのではないかな。

連携・協働を具体的に考えた場合、どう予算を確保するか、どの団体にどういった方向で働きかけをしていくか考えていかなければならない。地域や教育委員会のモデルも検証すればよいのではないかな。

社会教育では、今までも夢育パートナーズと同じような取組が行われてきたが、うまくいっていない。ボランティアに頼ったり、全県で動かなかつたりしたからだろう。SSWやスクールカウンセラーと同様に、しっかり予算化して、地域と学校を結ぶよう、夢育パートナーズに関する人材を確保するとよい。

事務局

豊かな体験活動について、「現状と課題」に、「文化・芸術」「自然体験」等の豊かな体験活動に結びつく可能性のある活動と記載しているが、本物に触れる、直接体験するといったことも含まれる。豊かな体験活動については、再度検討する。

教員の負担に繋がらないよう気をつけて整理していく。

夢育パートナーズについて、ボランティアに頼ると持続的な取組にならないという部分があった。ただ、自治体の財政状況が厳しい中で、予算を確保し続け、経費を捻出するというのは難しい。可能な限り経費を掛けずにできる仕組みはないか考えている。

会長

学校へ丸投げしていると感じさせないように表記を検討する必要がある。

豊かな体験活動については、地域の活動で、ある程度設定された活動が豊かな体験活動だったと思う方もいれば、自由奔放に遊ぶことが豊かな体験活動だったと思う方もいる。豊かな体験活動を絞り込む範囲は、絶妙なバランスが必要になってくる。

夢育パートナーズについて、新たにボランティアを募るのではなく、既存のボランティアや企業に対して、夢育パートナーズを後付けし、そこからネットワーク構築をしていくことが今回の最初のステップと考えている。

委員

社会教育、学校教育の双方に共通して、子どもたちの主体性を重要視しているところはよい。体験格差の是正のために、教育の機会均等が与えられている学校教育の場を取り上げたところもよい。

「現状と課題」について、豊かな体験活動に結びつく可能性のある取り組みの実施率が低いとあるが、豊かな体験活動は、「文化・芸術」や「自然体験」等に限られるのだろうか。学習指導も豊かな体験活動と捉える子どももいるだろう。

主体性を育むためには、夢育パートナーズやボランティアの方の関わり方がとても大事だ。専門性を持った方や地域の方と関わる中で、子どもたちが主体的に学ぶことを期待している。子どもたちが受動・受身になったりして、学校が求めるものではなくなってしまうケースがある。

コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の連携を考えていくのであれば、コミュニティ・スクール等のメンバー見直しを行い、より学校と連携していく形にしないといけない。

「5 学校・地域・家庭間等をつなぐための方策」について、夢育の視点の図が分かりにくい。

事務局

夢育の視点の図については、修正する。

委員

PTA活動としては各学校単位で様々な体験活動を行っている。夢育パートナーズとして、体験活動のコンテンツを集約することはよい。

コミュニティ・スクールで学校と協議を行っているが、具体的に取組を行う際には、PTAや地域学校協働本部の力を借りる。地域まで巻き込んで取組を行うことは難しい。

なるべく学校に負担をかけないよう、ボランティアで対応するようにしているが、夢育パートナーズの中で団体の方を紹介していただけたときに、活動のやり方や必要人員など運営方法について、相談・協力できる人がいるとありがたい。

検証モデルを小学校と中学校それぞれ行うことになっているが、実際の活動が見られることは大変ありがたい。

地域学校協働活動推進員の後継者が育っていないことは、課題である。10年前位からこういった活動がスタートしているが、同じ人が継続しているケースが多い。次の世代に受け継いでいく、継続していくという意味で課題である。

事務局

地域に根ざし、学校で負担なく運用できる仕組みを作っていくためには、学校と地域の双方のことをよく知っている方が、コーディネーターとして活動する必要があると思っている。

夢育パートナーズは、初めは、既存の仕組みを活用して立ち上げ、ゆくゆくは地域学校協働推進委員や地域のコーディネーターに知っていただくような取組も検討していかなければならないと考えている。

委員

既に意見が出ているが、学校中心とすると、教員の負担が増えるのではないか。学校と地域が連携・協働した取組をすることは分かるが、学校を中心とすることで、学校に丸投げのように受け取られるかもしれない。

「5 学校・地域・家庭間等をつなぐための方策」の夢育パートナーズの図について、行政や公民館も追加してはどうか。学校と連携したり、地域で活動したりしている方は、たくさんの仕事を任されていることもある。そういった方と学校をうまくコーディネートするには行政のサポートも必要ではないか。

委員

オリンピックの最中であり、トップアスリートたちの今までの努力やその積み重ねの一端が報道されている。感受性が豊かな子どもの頃に、両親や社会のスポーツ教室などの指導により夢や目標や希望を育ててきたことがよくわかる。

保護者と教員が一体となってサポートし、子どもたちが夢を持つことを期待しているが、「現状と課題」の将来の夢や希望を持っていると回答した児童生徒の割合が、中学校で65%、小学校で44%であり、未来を生きる子どもたちにしては、少ないと感じる。なぜ、今の子どもたちは、これほど夢を持っている割合が少ないのかを考えると、「夢を育てる」という教育内容そのものが学校教育の中に欠けているのではないかと感じる。我が国の長い歴史や文化や伝統の中で脈々と受け継がれている人間の生き様や努力・精進、根気強く取り組む姿勢に、夢を育てる要素がある。子どもたちの夢を育むためには、歴史教育を充実させることも必要なことではないか。そういう中で子どもたちが夢を育む生涯学習をどのように進めていくかというテーマに取り組んだことは、大変素晴らしい。

「8 資料」の図2に示すグラフでは、野外活動は高いと思いきや、実は20%程度であった。かつて、林間学校等の学校行事に取り組んできたが、まさにそのような活動が、夢育に関係した活動として存在していた。それが20%程度しかないことは、大変残念である。子どもたちは野外活動等の中で夢を育てるチャンスがあるので、この数値については、さらに向上させるべきではないかと思う。

将来を担う子どもたちのために地域や学校、その枠を超えた地域社会で取り組んでいくことは、大切なことである。

事務局

生涯学習分野で審議していただいているが、当然、学校教育においても、夢育を推進している。「8 資料」の図2に示すグラフは、県内の社会教育関係団体を対象とした調査であるので、数値としては低いと感じるかもしれないが、学校の取組を含めると、野外活動の割合は増えると考えます。

会長

中間まとめは、委員の皆様の意見をできるだけ反映させた上で、承認をいただいております。

一同 | よろしい。

○2 議事 (1) 検証モデル校の取組と検証に向けた今後の関わりについて

「資料4, 5, 6」により事務局が説明

委員 | モデル校の実践のときに、教員の本音を聞き取ってほしい。教員は、校外の方と協働した際、やりにくさがあっても言わない。同様に、地域側も言わない。学校は、地域側が強く主張するとなんとか受け入れようと努力する。しかし、それをやっていると、改善に繋がらない。本音を言ってもらうことによって、コーディネーターの人選、必要な人材、人材の役割分担が見えてくる。

委員 | アンケートの質問が気になる。全ての質問が個人の内心を問うもの。子どもがたくましく生きる力を持つことに繋がるような質問にしないといけない。子どもたちが主体的に生きる力を身に付けるということが大きな目的である。「自分の気持ちの中で納得してください」「自己責任ですよ」と感じるような問いが多い。例えば、「自分の考えを話し合いの場面や相手に対してははっきり伝えることができる」というような問いかけもあってもよい。自分の考えをはっきりと主張し、相手の考えとは違ってもよいということを子どもたちの中で徹底させたい。これから世の中は、多様な社会を形成していく。様々な考えを發表し、相手の事を認め、理解するような内容を意図的に入れる必要がある。現在のアンケート項目は、個人の内心に関係したことになっている。いい子になりなさいよという仲間作りに徹したようなアンケートになっているのかなと感じる。

また、アンケートの13番目の問いでは、「まわりの空気を感じ取ってその空気に合わせて行動できる」とある。障害を持っている子どもにとって、このようなことは苦手であるので、表現を変えた方がよい。

委員 | 私もアンケートが気になっている。項目が多く、内容も大人でも自信を持って答えられないと感じる。アンケートの項目を絞ってはどうか。

総合的な学習の時間の中で、子どもたちの体験したことを検証するためのアンケートとしては、これでは測れないのではないか。

夢に向かうエネルギーは、自己肯定感だと思う。「自分が好きである」「どんな自分であっても自分が好きである」ということが前に進むエネルギーであると私は考えている。本校では、総合的な学習の時間、キャリア教育、特活、各教科、道徳、全てにおいてこれに取り組んでいる。その検証として、3つの内容でアンケートを実施している。

1つめは、県が作成するキャリアパスポートで年度初めに立てた目標を達

成するために、自分が頑張ったかどうかという内容である。2つめは、ほめ言葉のシャワーなどの取組によって、自分のよいところに気がついたかどうかという内容である。3つめは、周りの人を笑顔にする方法を考えることができたかという内容である。この3つに絞って各学期にアンケートを取っている。

資料4について、地域と連携・協働するにあたり、教員は、打合せする時間を負担であると感じている。また、教科の指導には、指導の目標やめあてがあるが、指導のベクトルを地域の方と合わせることも負担であると感じている。目標やめあてがあるにも関わらず、それとズレた支援をする地域の人の中にはいる。

委員 アンケートは、指導の前後で実施すると思うが、それだと年間計画のどの取組が有効であったのか分からない。例えば、「自分が全力でやって楽しかったりした取組はどれですか」、「自分たちの力でやりきれた取組はどれでしたか」といった、子どもたちの夢育を発展させるために有効な取組が分かるアンケートがよい。

会長 アンケートについては、いただいた意見を反映して修正する。全体的な方向性は、これでよいか。

一同 よろしい。

○「2 議事(1)「夢育パートナーズ」の今後の取組について」

「資料7, 8, 9」により事務局が説明

会長 おかやま子ども応援人材バンクを夢育パートナーズに移行していくというイメージでよいか。

事務局 人材バンクの仕組みも非常によい仕組みで、ぜひ活用していきたいと考えているが、システム変更に伴う課題など、検討が必要である。

委員 子ども応援人材バンクは、登録が120団体あるが、県内には、およそ小学校が400校、中学校が160校ある。登録団体がない地域もあるだろう。地域学校協働活動本部やコミュニティ・スクールには、その地域を代表するような人材がいる。そういう方を指名し、事業に賛同を得て、広げていかないとうまくいかない。

委員 具体的なスケジュールを出してほしい。

夢育パートナーズは、学校の方々にも効果的に利用をしていただかなければならない。多くの団体の参加、学校への周知、システム構築も必要になる。それらをいつするのかというスケジュール感を共有したい。

アンケートについても、既に実施しているのではないかと。

委員 子ども応援人材バンクには、何か解決しなければならない問題があるのか。

事務局 システム変更にあたっての問題はある。また、現在登録いただいている団体に、夢育パートナーズへ移行していただくことへの賛同をいただく必要もある。

委員 せっかくあるものを使わない手はない。システム変更による問題はあると思うが、新たな仕組みを周知して募集する方が大変である。

会長 新規構築するよりは、既存のものを活用していく方がよい。

委員 新しいものを作ると周知が難しい。既存のものをうまく活用していけばよい。

本年度から久米南町にも地域学校協働活動推進員が設置された。これからコーディネーターの働きが必要になってくるとひしひしと感じる。

委員 夢育パートナーズは、あるものを活用すればよい。丸ごとひっくり返して看板を掛け替えるイメージだ。似たようなものがたくさんあるとわかりにくい。シンプルであるということが周知には大切である。

岡山市との連携はどうなっているのか。岡山市に拠点がある団体は多い。今後、夢育パートナーズは、地域を越えて県北の地域と結ぶということも考えられる。岡山市との連携や話し合いは避けられない。

アンケートは、修正するとのことであったが、既に1回実施しているが問題ないのか。

会長 夢育の検証モデル校の2校については、学校で既に実施している活動を夢育に寄せていくイメージである。その活動の前後にアンケートをとればよい。

既に実施したアンケートは、非認知能力に関する全体的な現状を確かめるためのものである。モデル校の現状として、能力群の強弱の実態を把握することができた。

委員 ベースとなる情報を把握するためのアンケートであったということか。2段階でアンケートを実施するという感覚でよいのか。

会長 そうだ。既に実施したアンケートは無駄にはならない。夢育に関する活動の前後で、それを検証するアンケートは別途実施する。

事務局 様々な施策について岡山市と連携できるところはしていきたいと思っている。ただ、政令市と県の関係の中で、財政的な課題など、ハードルが高いところがある。しかし、子どもたちにとって、岡山市に住んでいるかそれ以外の市町村に住んでいるかは関係ない。夢育パートナーズについても、岡山市と話を進めたい。この場で「できます」というよう回答は難しいが、除外する必要はないと考えている。

委員 そもそも学校は何のためにあるのかということを考えさせられた。何をしに学校に行くのか。何のために勉強するのか。きちんと答えられる教員が少ないと思う。学びを進める基盤としての非認知能力が高まったら、勉強もしやすくなる。自分で学ぼうという意欲があれば、教員も楽になると思う。しかし、今日出た意見は、丸投げをして欲しくないとか、負担を強いられたくないという学校側の逃げの話が多かったことが残念である。

会長 学校に行って教員に非認知能力の話をする、と、教員の目が輝く。「それが自分たちのやりたいことなんだ」という熱いメッセージをアンケートでいただく。

教員も過渡期にあると思わざるを得ない。今、ネガティブな意見があるかもしれないが、全員がそうではない。社会教育、生涯学習、義務教育、家庭で、一緒に考えてやっていくことが、これからの未来の教育のために必要であるとする。

事務局 修正した中間まとめは、委員の皆様にごどのように確認していただくのがよいか。

会長 会長に一任として、よろしいか。

一同 よろしい。